

## 夜泣〈よな〉き石（長田区）

長田の奥から明泉寺〈みょうせんじ〉を通過して白川へぬける古い街道があります。その途中に長坂というところがあります。ここに富士山の形をした石がありました。この石を長田村の若者たちがみつけて運び出し、長田神社の門のそばにすえました。長田神社に奉納して庭石にしてもらうつもりだったのです。ところが、そのときの長田神社の宮司〈ぐうじ〉さんがこの石をみて、あまりにみごとな石なので、

「これは美しい石だ。お宮におくのもよいが、お宮にはほかにも石がたくさんあるし、ひとつわが家へもってかえって庭石にしよう。」  
といて、奥平野にある自分のうちへもってかえりました。そして、家の庭にこの石をすえました。そして、「わが家に富士山ができた。」と喜んでながめていました。

その夜のことで。庭で泣き声があるではありませんか。

「エーン、エーン、長田へかえろ、長田へかえろ。」

宮司さんは驚いて障子をあけて庭をみまわしました。誰か人がいるのかと探してみましたが、誰もいません。

「なーんだ、気のせいだったのだろう。」

とあって、その夜は眠ってしまいました。

ところがどうでしょう。つぎの夜も、そのつぎの夜も、泣き声はやみません。

「エーン、エーン、長田へかえろ。」

宮司さんは庭中を探しまわりましたが、誰も人はいません。宮司さんは今宵〈こよい〉こそ、誰が泣いているのかつきとめようと決心して、一晩中眠らずに見はる覚悟〈かくご〉でいました。するとどうでしょう、また庭石のあたりで、

「エーン、エーン、長田へかえろ、長田へかえろ。」

という声がします。庭石のところへ飛んでいくと、庭石はびっしょりぬれていました。宮司さんは、

「ああ、悪いことをした。はやく長田へかえしてやろう。」

と思い、夜が明けるとすぐにおおぜいの人を集めて、長田まで運んでもらいました。こうして、この庭石は長田神社の境内にもどり、それからずっと、「夜泣き石」としてお宮の一隅にあります。